

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市歴史民俗資料館
2	指定管理者	公益財団法人仙台市市民文化事業団
3	指定期間	平成24年4月1日～29年3月31日
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》37,566人（前年度比103%） 平成26年度 36,435人 平成25年度 34,069人 平成24年度 32,855人</p> <p>《事業》展示事業：常設展，特別展「仙台のまちと近代交通」，企画展（2回），季節展示（4回） 資料の収集・保管・調査研究事業，普及啓発事業（講座・体験学習等）</p>
5	収支の状況	<p>《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 66,614千円 （ 68,819千円） ・ その他市が負担した費用 0千円 （ 0千円）</p> <p>《収入》 ・ 使用料収入 1,217千円 （ 1,172千円） ・ その他収入 528千円 （ 449千円）</p> <p style="text-align: right;">（ ）は前年度決算額</p>
6	利用者の声	<p>《実施状況》 平成27年12月に施設利用者アンケートを実施。 また、各企画展毎にアンケートを実施しホームページ上で紹介。</p>

二 管理運営に係る評価

（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針が確立されており、職員がそれを十分理解していると同時に、歴史民俗資料の積極的な収集・保管、調査・研究、展示事業や講座等の普及啓発事業等を通して本市の歴史文化の保護向上等の施設目的を十分達成している。	S
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績及び配置状況は適切であり、開館状況、指定管理料の執行状況及び個人情報の保護も適正である。事故・災害等の発生時の対応体制は、研修や震災後の事例集の作成などにより職員間での共通理解が図られている。	S
III 施設・設備の維持管理	施設そのものが仙台市指定有形文化財であり、従前通り適切に管理され安全性が確保され、利用者が快適に利用できる状態が保持されているとともに、仙台市環境行動計画に則り省エネ・リサイクルに努めている。	S
IV サービスの質の向上	職員の接客マナーや受付状況は適切であり、随時職員への教育・研修も行っている。また、ホームページやパンフレット等による利用情報の積極的な提供や利用者アンケートも実施している。苦情については随時適切に対応しており、アンケートで寄せられた意見にはホームページ上で適宜回答しており、双方向の関係性確率が図られている。	S
V 施設固有の基準	協定書や仕様書等に基づき適切に施設を管理するとともに、事業計画書どおりに適切に事業を運営している。また榴岡公園を利用して行うイベントには多くの近隣住民やリピーターが訪れており、施設の活動が地域社会や市民に定着している。	S

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1	地域住民への対応	近隣の学校や町内会への出前講座及び近隣30町内会長自宅への毎月発行している「歴史民俗資料館だより」の配布等により、本館職員の積極的交流を推進することにより、地域住民の中に自分たちの施設であるという意識を醸成するとともに、施設利用者の拡大と文化財保護継承についての普及啓発に大きな役割を果たしている。
2	サポーター養成講座	展示解説にとどまらない資料館運営に資することのできるサポーター養成講座を継続して開催していることは、市民の生涯学習活動の充実とともに文化財保護継承意識の醸成に大きく貢献しており、大いに評価出来る。
3		
加点評価		A

四 評価総括

《指定管理者（（公財）仙台市市民文化事業団）による自己評価》

施設の管理運営に当たっては、施設所管課と協議を行いながら、協定書に基づき適切に行った。施設管理については、前年度に引き続き、光熱費の削減等を図るため、蛍光灯の点灯数の削減や、展示室のスポットライトのLED化を行った。また、事務室などにおいては空調の温度ムラを無くすためサーキュレーターを取り入れ適切な温度調整に努めた。

普及啓発事業においてサポーター養成講座を上半期・下半期の2回行い、4名のサポーターが誕生し、合計19名に増えた。さらに、東長町小学校、川平小学校、将監小学校、桂小学校、中野中学校の教職員計5名の職場体験研修及び、2名の障がい者就労体験実習を受け入れた。

当館入館者数は、37,566人と前年と比較して1,131人増加し過去最高の入館者数の記録を更新した。市内学校(124校)の来館校数は105校で入館者は7,578人であった。その他、市内外の小中学校数を加えると164校8,954人となった。体験学習の回数も堅調に推移しており、今年度は433回であった。このように全体の入館者の増加傾向は、新学習指導要領において資料館、博物館の見学学習や体験学習が重視されるようになったことや、当館が学校教育とのタイアップを図るための取組として、ホームページの充実と言うまでもなく、毎月発行している歴史民俗資料館だよりを、市内全小・中学校に配布することを通して、学習に必要な情報・資料の提供を行うなど、継続して積極的に実施してきた成果によるものと思われる。また、近隣の30町内会長自宅に毎月お届けしていることも功を奏してきているものと考えられる。

展示事業については、特別展「仙台のまちと近代交通」を初め、年間3回の特別展・企画展を実施し、展示図録を2種類発行した。また、「花見」「七夕」などの季節展を年間通して4回実施するなど、来館者が楽しめる環境を整えることに努めた。さらに、被災地関連展示「若林区六郷・七郷のくらし」を実施した。これは一日も早い復興を果たしたいと願っている人々の災害復興に向けた街づくりに当館としても資していきたいと考え実施したもので、今後とも復興に向けた被災地関連事業については積極的に継続して取り組んでいきたいと考えている。

調査研究活動の成果としては、調査報告書第34集をまとめ、さらに資料整理の成果を資料集第14冊「大正一四年仙台市写真帖」として発行し、市民の方々の学習及び研究に役立った。

資料の収集・整理・保管にかかわる事業としては、ほぼ前年並みの資料を収集し、その件数は60件・1,890点、登録資料の総点数は82,589点となった。また、資料の貸出許可、撮影・掲載許可それぞれの件数もほぼ前年並みであった。普及啓発事業においては、各企画展ごとの関連イベントの他に「ゴールデンウィーク おもしろ昔たいけん」等のさまざまなイベントを行い、老若男女多くの方々が参加し、楽しんでいただいた。なお、ホームページのアクセス件数が昨年より1,192件減少し、45,090件となった。

仙台市市民文化事業団の自主事業として始めた「れきみん秋まつり」は第10回を迎えた今回も仙台市教育委員会と共催で実施し、晴天にも恵まれたこともあって、4,965名を超える来場者を記録した。さらに、「東北文化の日」と関連して行った「れきみん秋まつり」の伝統工芸の職人実演の部や、毎年6月に行っている「猿舞座のさるまわし」など、いずれの事業も市民の方々に定着し、大変好評である。また同じく自主事業として継続的に行っている復刻地図の頒布事業では、昨年度新たに作成した「昭和二十二年仙台市街明細地図」を初め、他の復刻地図も大変好評であった。

今後さらに当館の地域における役割と使命を自覚し、市民の皆様方のニーズに応える施設となるよう職員一丸となって取り組んでいきたい。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>施設の運営管理にあたり、指定管理者は協定書等に基づき適切に運営を行っている。また施設設置者である担当課と指定管理者・施設担当が、市の事業推進や指定管理業務の課題解消について適宜調整を行い、協力して業務遂行にあたっている。</p> <p>入館者数が引き続き増加を示していることは資料館の存在と活動が市民や市外、県外の方々に定着かつ拡散していることを表しており評価出来る。特に地域の町内会や小学校に職員が直接訪問して顔の見える関係を構築していることは、資料館をより身近な存在にすることに繋がり、来館はもとより住民側からの需要を喚起するうえで、重要な意味を持ち、実際に出前講座の要請となって実を結んでいる。展示事業は特別展「仙台のまちと近代交通」をはじめ、企画展や季節展示を計7回催すなど、施設自体が旧兵舎であり通常の資料館施設のような大きな展示会場が確保できないという重大な物理的制約のなかで積極的な事業展開を行っている。また、近年継続している小学校に向けた質の高い活動を継続していることが、市内の大半の小学校の利用に結びついている。これは将来における歴史・文化の継承に対し、重要な役割を果たすべき次世代の担い手育成として重要なことである。さらに、アンケート等でも活動に対する評価も、引き続き高い水準にある。</p> <p>なお、特別展・企画展示におけるタイトルについては、展示意図を市民に分かりやすく伝えるとともに観覧意欲をかき立てるような一段の工夫が必要と思われる。資料の収集に関しては例年2,000点前後の受入れがあるが、これらの資料と従前からの収蔵資料のさらなる整理促進が望まれる。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部文化財課